



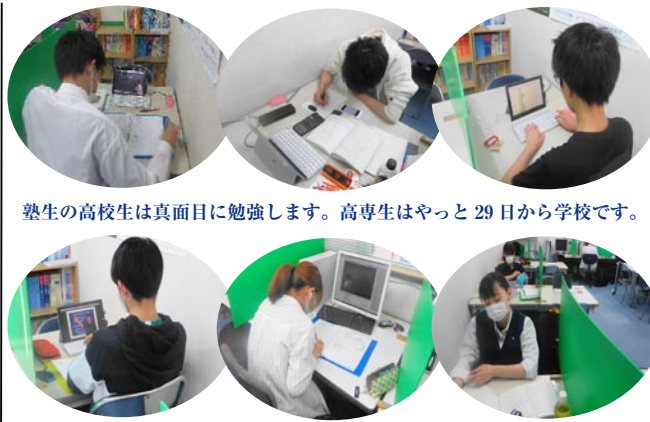
小 中 学 生 の 学 び

【コロナ禍と呼吸器感染症】  
コロナ禍により3月から5月まで3ヶ月にわたり休校となり勉強に生活に、そして経済にも大きな影響を及ぼしました。  
勉強においてはオンラインで授業ができたところと出来なかったところでは学力に大きな差が生まれ、格差が問題になりました。また、経済にもリーマンショック以上と言われる大きな影響が出て、今年度の就職内定取り消しや企業の廃業、倒産が問題となり大勢の人が解雇や雇止めにあっています。  
コロナ後が以前の状況に戻るのか、戻るとしても何年かかるのか見当もつきません。今、中学生、高校生の間にも間違いなく影響があります。新指導要領、入試制度の変更、そしてAIなど新しい時代は大変な格差社会です。「氷河期世代」と同様に「コ

## 富原中吹奏楽動画を公開

【動画】町立富原中学校吹奏楽部は、6月に開催された「富原中吹奏楽部」の動画を公開しました。動画は、吹奏楽部員が演奏している様子を撮影したものです。動画は、吹奏楽部のホームページに掲載されています。動画の公開は、吹奏楽部の活動を広く知ってもらうための取り組みです。動画の公開は、吹奏楽部の活動を広く知ってもらうための取り組みです。

【動画】町立富原中学校吹奏楽部は、6月に開催された「富原中吹奏楽部」の動画を公開しました。動画は、吹奏楽部員が演奏している様子を撮影したものです。動画の公開は、吹奏楽部のホームページに掲載されています。動画の公開は、吹奏楽部の活動を広く知ってもらうための取り組みです。動画の公開は、吹奏楽部の活動を広く知ってもらうための取り組みです。



塾生の高校生は真面目に勉強します。高専生はやっとなら29日から学校です。



塾で昼食、附中3生の田中さんと東高2年の成田さん



成田さんのお母さんから手作りクレープの差入れ(下)

【コロナ時代】呼ばれ、大変な思いをしないように、目標を持ち、それに向かって頑張ります。文科省は24日、学校へのスマートフォンや携帯電話の持ち込みを議論する有識者会議を開き、登下校時の緊急事態に備えた連絡手段として、中学校では、管理方法を明確にするといった3条件が整えば、持ち込みを認める案を示した。原則禁止の方針は維持した上、容認の条件を詳しく示し、可否を判断しやすくした。校内使用は禁止し、登校時に預けることなどを要請した。  
委員は大筋で了承し、文科省は7月中にも全国の教育委員会などに通知する。文科省は2009年の通知で、小中学校への携帯電話の持ち込みを原則禁止し、遠距離通学などの事情があれば、例外的に認

## 理事長予定者に菅原氏

【動画】富原中吹奏楽部は、6月に開催された「富原中吹奏楽部」の動画を公開しました。動画は、吹奏楽部員が演奏している様子を撮影したものです。動画の公開は、吹奏楽部のホームページに掲載されています。動画の公開は、吹奏楽部の活動を広く知ってもらうための取り組みです。動画の公開は、吹奏楽部の活動を広く知ってもらうための取り組みです。

【動画】富原中吹奏楽部は、6月に開催された「富原中吹奏楽部」の動画を公開しました。動画は、吹奏楽部員が演奏している様子を撮影したものです。動画の公開は、吹奏楽部のホームページに掲載されています。動画の公開は、吹奏楽部の活動を広く知ってもらうための取り組みです。動画の公開は、吹奏楽部の活動を広く知ってもらうための取り組みです。



21期生で振興局の小原君、28期生の成田さんと5期生公務員を続けるか考え中！

めるとしていた。近年、スマホなどを持つ子どもが増え、保護者から連絡手段として持参を希望する声が増え、改めて取り扱いを検討していた。  
また、案は、中学の登下校時間は一般的にそれほど長くない、原則として持ち込み禁止とすべきだとした。一方、部活動に参加して帰宅が遅くなる場合があり、実情に即して既に容認している学校もあると指摘。「一定の条件の下、持ち込みを認めるのが妥当」と結論付けた。  
持ち込みの条件には、(1)管理方法や紛失などが起きた際の責任を明確にしておく(2)閲覧対象を制限する「フィルタリング」を保護者の責任で設定(3)危険性や正しい使い方を適切に指導するの3点を挙げ、生徒、保護者、学校が合意し、環境を整備することを求めた。  
毎日新聞6月25日

31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水
					休塾			海の日 ●午前授業				休塾			◆富原定期テスト16	◆鳥取西定期テスト17	◆景雲定期テスト15		休塾							休塾				

【学力は社会に貢献するために】  
すでに8期生で北病院に勤務する佐々木君は作業療法士の次期理事長に、このように卒業生たちが社会で大事な役割を担うようになってきました。  
いつも言っているように学力は、いい学校、いい企業に入るためではなく、社会に必要とされ、社会に貢献できる人になるためのものです。  
今必要とされる人材は多くの情報、知識から正しい判断ができ、自ら考え、自ら行動出来る人です。新しい時代に生きて行かなければならない皆さんは、今できることに真剣に取り組むことです。  
これからの社会に貢献するには医療、福祉、教育、そして農林水産業、技術者の道へ進むことです。

## 学力を下げるスマホへの親和性を高めていいのか

川島隆太・東北大学加齢医学研究所所長  
緊急連絡用のキッズ携帯ならともかく、学校へのスマホの持ち込みには大反対です。なぜか。私たちの10年間の調査から、スマホを使うと学力が下がる、という結果がはっきりと出ているからです。

私たち東北大学加齢医学研究所では、仙台市の公立小中学校に通う児童生徒約7万人に対して、2010年度から10年間にわたって「学習意欲の科学研究に関するプロジェクト」という調査をしてきました。朝食習慣、睡眠時間、家庭学習時間、学力テストの成績などさまざまな項目を調べるのですが、その一つに2013年度からスマホの使用状況も加えました。すると、スマホの使用で、非常にわかりやすい特徴が浮かび上がりました。

例えば下記のグラフは、小学5年～中学3年の約3万6000人について、スマホの平日使用が1時間未満の子たちと1時間以上の子たちに分け、さらに家庭学習時間と睡眠時間ごとに群分けして成績を比較したものです。スマホを1時間未満しか使わないグループは、勉強時間と睡眠時間が相関して、勉強して適度の睡、偏差値も上がるという結果が出ています。一方、スマホを3時間以上使うグループは、学習時間が増えても睡眠の時間が十分に延びても、「学力が上がらない」という事実が分かりました。因果関係を調べるため5年間の追跡調査(縦断調査)として、子どもたちの成長を匿名データで連結して追いかけた結果、スマホの使用が長時間になれば成績が下がり、使用を減らせば成績が戻るという傾向も明らかになりました。

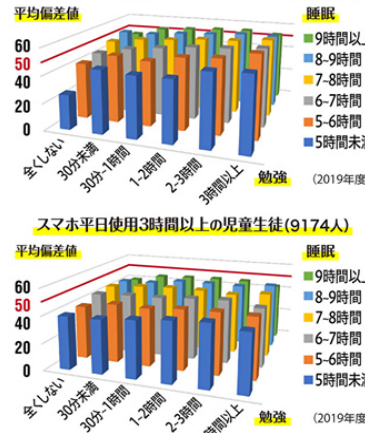
2019年度は、低年齢の小学3～4年生でも同様の調査を行いました。結果はさらに顕著で、1時間以上使用の子はほぼすべて、勉強しようが寝ていようが学力の平均点を超えませんでした。

なぜスマホが学力にマイナスの影響を及ぼすのか。

短期的に言えば、LINEに代表されるコミュニケーションアプリなどでのマルチタスキング(複数の作業を同時並行で切り替えながら実行すること)が挙げられます。勉強中に通知が頻繁に来ることで集中力が途切れるのです。一度途切れると、集中力は復旧にも時間がかかります。

コミュニケーションだけではなく、学習目的の使用でも差があります。例えば、ある単語を調べるのに紙の辞書を使ったときとスマホを使ったときを比較

スマホ平日使用1時間未満の児童生徒(6915人)



出典:東北大学加齢医学研究所

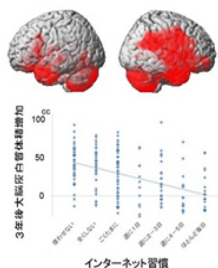
すると、1分間で調べられる単語の数は辞書が3個で、スマホは5個。数ではスマホ優位のように見えます。

しかし、脳の働きを光トポグラフィー(近赤外線分光法)で見ると、違いがありました。スマホで単語を調べても、学習をつかさどる前頭前野がまったく働いていないどころか、むしろ抑制がかかっていることがわかりました。学習になるどころか、脳を休ませているようなものです。スマホでの学習が定着しづらいことと同じ現象だと思われま

す。長期的に見ると、さらに恐ろしい事実があります。仙台市に住む5～18歳の子ども

224人を3年間追跡し、インターネット利用習慣と、その間の脳発達をMRIで計測したのです。すると、ネットの利用時間が長い子ほど3年経っても大脳皮質の体積が増加していませんでした。ネット利用の多くはスマホによるものでした。つまり**スマホ利用によって、脳発達が止まり、成績も上がらないと言えるのです。**

### インターネット利用時間と3年間の脳発達の関係



仙台市在住5歳～18歳の224名の3年間の脳発達をMRIを用いて計測

インターネット習慣が多い小児は3年後の広範な領域で大脳皮質の体積があまり増加しない

最初の時点では、インターネット習慣が多いものほど脳が小さい訳でない

Takahashi et al. Human Brain Mapping 2018

同じ調査を東北大学の学生(平均20.7歳)でもしましたが、大脳のネットワークに劣化が見られました。要は、若くても老化が起っていたのです。

いまスマホを小中学校に持ち込んでよいか、文科省で議論されています。その議論の前に、まずこの仙台での10年間で証明された科学的データを知っておくことが必要だと思います。仙台市では現在、小学校低学年～中学年の約

半数はスマホを未所持です。でも、この現実を伝えずに小中学校への持ち込みを認めれば、きっと保護者も「皆が持たせるなら、うちも」という流れになるでしょう。とはいえ、子どもにまったくスマホを触らせないというのも、今の時代、現実的ではないでしょう。そこで、子どもにスマホを長時間使わせない仕組みが必要だと考えます。

調査でも、平日の使用1時間未満の子たちは、自分を律してスマホを必要な時

だけ道具として使うことができおり、学力も努力に応じて伸びていました。もっともそんな子の割合は、小学校中学年で半数以下、中学3年生ともなると18%弱しかいません。私としては、スマホを緊急時の連絡を除き、1時間以上は使えないようにするアプリを作り、未成年は必ずインストールするようなルールにするのが唯一の解だろうと思います。

**スマホは習慣性や依存性が強く、脳への毒性もあります。その事実を認めたくなくて、なるべくスマホを使わない社会をつくるために知恵を結集しないと、国が減るのではないかと本気で危惧しています。**

## 「管理」と「規律」という課題が未解決

竹内和雄・兵庫県立大学環境人間学部准教授

公立小中学校への携帯電話の持ち込み原則禁止は、2008年に大阪府が全国に先駆けて打ち出し、翌2009年に文科省が同様の通知を出しました。しかし、その大阪府で2018年、登校時間帯に大阪北部地震が発生。すぐ安否確認が取れなかったことを問題視した一部保護者から原則を見直すべきだという声が上がりました。

そこで、府の教育庁は2019年3月、持ち込みを一部解禁とするガイドラインを発表しました。持ち込みのみ許可で、校内では使用禁止、各自のカバンで保管……といった内容です。実際の対応はガイドラインをもとに、各自治体、各学校が2019年度に1年かけて決めることになっています。

これに東京都が追随し、2019年6月、都立高では校長、小中学校では区市町村教育委員会の判断に任せるという通知を出しました。文科省も今後の方向性について検討を重ねていることから、全国的にこの流れが広まるのかが注目が高まっています。高度情報化社会の流れもあり、10年もすれば子どもたちが学校に普通にスマホ等を持っていく時代が来るといいます。しかし、現状では時期尚早という意見が多いのが実情です。持ち込みによって発生する「管理」と「規律」という二つの課題が未解決だからです。

まず、スマホを学校に持ち込んだ時の「管理」です。大別すると、「学校保管」か「児童生徒保管」です。

「学校保管」は持ち込んだスマホを学校が預かるものです。ある小学6年のクラスでは、36人中31人の児童が担任教師に預け、担任は自分の机で管理していました。仮にスマホ1台10万円とすると、計310万円分です。担任教師は「最初は2、3人だったので大丈夫だったが、さすがに31人となると盗難や破損が怖い」と話していました。盗難や破損等を考えると金庫等での保管が望ましいでしょうが、学校にはそんな予算はありません。

一般的なのは「児童生徒保管」です。実際、大阪府のガイドラインも児童生徒保管とし、カバンに入れて児童生徒が自分で管理するとしています。しかし、これもまた盗難などリスクを考えると、南京錠等の施錠がしていない学校もあり、万全ではありません。つまり、「管理」では、どちらがいいという結論はまだ出ていません。

次に「規律」の問題です。

先生がたの一番の懸念は、「規律」つまり生徒指導上の課題です。盗難、盗撮などのトラブルや授業中にこっそり使う懸念が大きいです。

そうした規律違反では、高校だと(最悪の場合)停学や退学等の重い処分を取ることが可能です。しかし、そうした処分等の権限のない小中学校では対応が難しい面があります。

他にも「登下校時の歩きスマホでの事故」など懸念事項はありますが、なにより注意が必要なのは「スマホへの依存」です。

WHO(世界保健機関)が昨年、ゲームのやりすぎで日常生活が困難になる「ゲーム障害」を国際疾病分類(ICD-11)に加えました。スマホはオンラインゲームの端末の一つとして考えられています。「これまで小中学校ではスマホと離れていられたため、学齢期の子たちの深刻化を食い止めている側面がある」と専門家は指摘しています。「そうしたルールも含めて、使い方を教えるのが教育ではないか」という声もありますが、私もそれに賛成です。ただ、教師の側がスマホ文化に十分習熟しているとも言えず、このあたりも大きな課題です。

学校にスマホを持たせることを「(震災など非常時の)命の問題」と思う保護者は多いです。大阪では昨年、小学6年の女兒がインターネットで知り合った成人男性に誘拐されました。これも「命の問題」です。

0か100かの結論では無理なことは自明です。子どもは未熟です。日常生活で子どもは失敗を重ねるなかで、少しずつ成長していきます。しかし、**インターネットで誤った使い方をすると、犯罪に巻き込まれるなど取り返しがつかないことになりかねません。**一方で、子どもたちはこれから高度情報化社会を生き抜いていかねばなりません。大学生は就職活動で情報収集に自分のスマホを駆使します。使いこなす能力は必須です。スマホという高度な情報端末について、危険性を子どもがわかる形で提示して、しっかり怖がらせ、そのうえで使い方を一緒に考える。そういう姿勢が必要です。大人の責務として、まずはこの問題の論点を整理し、何をどこまで認めるか、何を認めないか、線引きについて冷静に議論する必要があります。試されているのは私たち大人です。